

20歳になったら考えよう 子宮頸がん検診

◎子宮頸がんとは？

子宮の入り口付近の子宮頸部にできるがん。
20～40歳代で増えています。早期発見できれば、妊娠出産のために子宮を残す治療方法の選択も可能です。初期では自覚症状がほとんどないため、症状が出てから受診すると、病気が進行していることが多くあります。

◎ウイルスが関係しているって本当？

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスが関与しています。
特別な人になる病気ではなく、性交渉の経験がある女性であれば、誰でも感染する可能性があります。

正しく知ろう



検診の大切さ

◎受けてみよう、子宮頸がん検診

子宮頸がんは定期的に検診を受けていれば、がんになる前の段階（前がん状態）で発見することも可能です。細胞診という検査を行い、子宮頸部の表面からブラシ等でこすり取った細胞を、顕微鏡で調べます。
症状がない健康なときこそ、検診受けるタイミングです。
ただし、不正出血等の自覚症状があった場合は、検診ではなく、すぐに医療機関を受診しましょう。

和歌山市の子宮頸がん検診

対象者 20歳以上の偶数年齢の女性(前年度に未受診の奇数年齢の女性も可)

自己負担金 20～69歳…2,000円、70歳以上…1,000円

市内の産婦人科等(和歌山市ホームページに掲載)で受診することができます。

検診受付の際に、「和歌山市の制度を使って子宮頸がん検診を受けたい」と申し出てください



問い合わせ先 和歌山市保健所 地域保健課 073-488-5121